

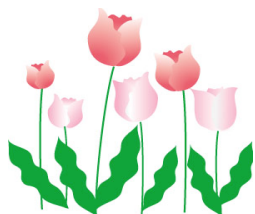


# 学校だより

4月号

令和4年4月7日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



## 「 成長の節目<sup>ふしめ</sup> 」

学校長 後藤 直樹

いよいよ令和4年度が始まりました。これほど極端な気温の変動は、「三寒四温」という言葉のもつ穏やかなイメージとは少し違うような気がします。そのような中、コロナ禍での3回目のスタートとなりました。少し状況は変わってきてはいますが、今年度もこれまで通りしっかりと対策を行いながらも、子どもたちの体験的な活動の充実に向けて全力で取り組んでいきたいと、決意を新たにしたところです。

学校にとって、この年度の節目というのは、大晦日や元日という年の節目以上に大きな意味をもちます。子どもたちは進級とクラス替えということで、大きく環境が変わります。それは気持ちを切り替える大切な機会でもあります。また、新入学の1年生にとっては、人生の中で最初の大きな節目といってもよいかもしれません。始業式ではこの年度の節目を竹の節に例えて、子どもたちにこんな話をしました。「竹はこの節があるからこそ、強い風にあおられても折れてしまうことがないしなやかさをもっています。」もし竹に節が無かったら大きく曲がったときに、きっと縦に大きく裂けてしまうでしょう。この節目の時となる今、自分を振り返り、新たな目標を立てることで、さらに強く、大きく成長することができます。しっかりと丈夫な節を作ってください。

ところで、竹をよく観察すると、根元近くの大きな力が加わる部分は節と節の間隔が狭く、丈夫にできていることが分かります。一本の竹を人の成長に例えると、小学生の時期はこの根元の節が密な部分ではないかと思えます。この後、太さを保ちながら間隔を少しずつ広げ、大きくしなやかに成長するための大切な時期だと言えます。また、枝や葉が触れ合うことで、隣に生えている竹と互いに影響をし合って成長しているという研究データもあります。学校はそんな枝葉が触れ合う場の一つなのかもしれません。一人ひとりの子どもたちが、このコロナ禍を乗り越えて、大空に向かって真っすぐに伸びていく、この青竹のように成長していくことを願います。

